

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・家庭基礎	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	
科目の概要と目標	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を身につけさせる。 ・家庭や地域及び社会の生活の中から課題を設定し、解決策を考え、実践し、考察したことを論理的に表現するなど、課題を解決する力を育てる。 ・実践的・体験的な学習活動を通して、自分や家庭・地域生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	・家庭科を学ぶ意義	・人や社会との関わりや衣食住について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。	
1. 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を目指して	・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解することができる。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解することができる。	
2. 生涯を見通す	・人生を展望する ・目標を持って生きる	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解することができる。 ・生涯発達の視点で青年期の課題を理解することができる。	
3. 人生をつくる	・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会	・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めることができる。	
4. 共に生き、共に支える	・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方 ・共に生きる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。	
5. 住生活をつくる	・住生活の変遷と住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活	・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。	
6. 経済生活を営む	・情報収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 ・生涯の経済生活を見通す ・これからの経済生活	・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解するとともに、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解することができる。	
7. 夏休みの課題	・ホームプロジェクト計画 ・ホームプロジェクト発表	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	
8. 子どもと共に育つ	・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる ・これからの保育環境	・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる。	
9. 超高齢社会を共に生きる	・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢期の心身の特徴 ・これからの超高齢社会	・高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けることができる。	
10. 食生活をつくる	・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食品の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活	・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けることができる。	
11. 衣生活をつくる	・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・衣生活の文化と知恵 ・これからの衣生活	・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・家庭総合	4	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	
科目の概要と目標	・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けさせる。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けさせる。 ・様々な人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	・家庭科を学ぶ意義	・人や社会との関わりや衣食住について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。	
1. 食生活をつくる	・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食品の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活と文化と知恵 ・これからの食生活	・食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解することができる。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けることができる。	
2. 生涯を見通す	・人生を展望する ・目標を持って生きる	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めることができる。 ・生活の営みに必要な生活資源について理解しているとともに、情報の収集・整理が適切にできる。	
3. 人生をつくる	・人生をつくる ・家族・家庭をみつめる ・これからの家庭生活と社会	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解しているとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めることができる。 ・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解しているとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めることができる。	
4. 子どもと共に育つ	・命を育む ・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる ・子どもとの触れ合いから学ぶ ・これからの保育環境	・乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けることができる。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解を深めることができる。	
5. ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	・ホームプロジェクト計画 ・ホームプロジェクト発表	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	

6. 衣生活をつくる	・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・被服を作る ・衣生活の文化と知恵	・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めることができる。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解しているとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けることができる。
7. 超齢者社会を共に生きる	・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢期の心身の特徴 ・高齢者の自立を支える ・これからの超高齢社会	・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けることができる。 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めることができる。
8. 住生活をつくる	・住生活について考える ・住生活の計画と選択 ・住生活の文化 ・これからの住生活	・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深めることができる。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。
9. 共に生き、共に支える	・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方 ・共に生きる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。 ・家庭と地域との関わりについて理解しているとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めることができる。
10. 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を目指して ・一人一人の力で社会を動かす	・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めることができる。
11. 経済生活を営む	・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 ・生涯の経済生活を見通す ・家計をマネジメントする ・これからの経済生活	・家計の構造について理解しているとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深めることができる。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めているとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解しているとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めることができる。
12. これからの生活を創造する	・生活をデザインする	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用した生活設計について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。

教科・科目		単位数	教科書	使用教材
家庭・生活産業基礎		2		
科目の概要と目標		衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業について学ぶ。実践的・体験的な学習活動を行い、職業人に求められる基礎的な資質・能力を育成することを目標とする。		
単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標		
1. 「生活産業」を学ぶに当たって	・「働くこと」の社会的な意義や役割 ・職業人に求められる倫理観 ・産業構造の変化と課題 ・生活産業の意義と役割	・職業人として働くことの社会的な意義や役割について理解することができる。 ・産業構造の変化について課題を発見し、生活産業を担う職業人としてその解決に向けて考察することができる。 ・生活産業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		
2. ライフスタイルの変化と生活産業	・社会の変化とライフスタイルの多様化 ・生活産業の発展と伝統産業	・社会の変化に伴いライフスタイルが多様化し、人々のニーズに対応して生活産業が発展していることについて理解することができる。 ・生活産業と日本の伝統産業における課題を発見し、その解決に向けて考察することができる。 ・ライフスタイルの変化と生活産業について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		
3. ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供	・消費者ニーズの把握 ・商品・サービスの開発及び販売・提供 ・関係法規	・消費者のニーズを的確にとらえることの必要性和、商品を企画し、提供していく上で必要なマネジメントの手法、関係法規の概要や趣旨を理解し、関連する技術を身につけることができる。 ・消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		
4. 生活産業と職業	・食生活関連分野 ・衣生活関連分野 ・住生活関連分野 ・ヒューマンサービス関連分野	・家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 ・生活産業に関する職業に就くための課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・生活産業と職業について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		
5. 職業生活と自己実現	・職業選択と自己実現 ・社会の変化と職業生活 ・将来設計と進路計画	・生活産業に関わる職業人に求められる資質・能力、役割や責任、職業資格などについて理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 ・適切な進路選択と専門性の向上を目指す上での課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・職業生活と自己実現について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。		

教科・科目		単位数	教科書	使用教材
家庭・課題研究		2		
科目の概要と目標		家庭の様々な分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化・統合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を育てる。		
単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標		
1. 「課題研究」を学ぶに当たって	・「課題研究」を学ぶ目的 ・「課題研究」とは	・総合福祉科に入学してきた意義を理解できる。 ・「課題研究」を学ぶにあたって、学習の意義や内容等を理解できる。		
2. 情報の収集と整理	・情報の種類と信頼性 ・情報の集め方 ・キーワードの重要性 ・文章のビジュアル化	・情報源の種類と信頼性を理解できる。 ・インターネット検索や本の検索システムを理解できる。 ・キーワードの抜き出し方を理解できる。 ・文章を図示する方法を理解できる。		
3. 研究テーマの決定	・興味、関心のビジュアル化 ・研究テーマの分析	・ワークシートを用いて、キーワードとそれに関連する言葉を整理できる。 ・研究テーマを決めることができる。		
4. 仮説を立てる	・調査、実験の準備 ・仮説を立てる	・調査、実験が必要な内容を整理できる。 ・仮説とその根拠をまとめることができる。		
5. 調査、実験	・アンケート調査の実施 ・実験 ・中間発表の準備	・アンケート内容を精査できる。 ・調査対象に向けたアンケートを作成することができる。 ・実験に必要な材料を準備し、計画的に実行することができる。 ・中間報告に向けて、情報を整理して発表することができる。		
6. まとめ、発表	・最終報告の準備	・各自の課題に対する研究の成果を集録にまとめることができる。		

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・保育基礎	4	保育基礎 ようこそ,ともに育ち合う保育の世界へ(教育図書)	
科目の概要と目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、保育を担う職業人として必要な、基礎的な資質・能力を育成することを目標とする。		
単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1. 子供の保育	・ 保育の意義 ・ 保育の方法 ・ 保育の環境	・ 保育の意義と方法、保育の環境の特徴と役割について理解することができる。 ・ 子供の心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・ 子供の保育の方法や保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
2. 子供の発達	・ 子供の発達の特性 ・ 乳児期の発達 ・ 幼児期の発達	・ 生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子供の姿を通して理解することができる。 ・ 乳幼児期の子供の健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・ 子供の発達について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
3. 子供の生活と養護	・ 乳幼児期の生活の特徴と養護 ・ 生活習慣の形成 ・ 健康管理と事故防止	・ 子供の生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身につけることができる。 ・ 子供の生活と適切な養護について、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・ 子供の生活と養護について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
4. 子供の福祉	・ 児童観の変遷 ・ 児童福祉の理念と関係法規・制度 ・ 子供の福祉を支える場	・ 児童の変遷や児童福祉の理念と制度について理解することができる。 ・ 子供の福祉を支える場の役割について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・ 子供の福祉について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
5. 子供の文化	・ 子供の文化の意義 ・ 子供の遊びと表現活動 ・ 子供の文化を支える場	・ 子供の文化、遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身につけることができる。 ・ 子供の健やかな発達を促す遊びや表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。 ・ 子供の文化について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・生活と福祉	2		
科目の概要と目標	・高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
単元	学習内容	到達度目標	
健康と生活	健康の概念	・高齢者に至るまでの生活における健康問題と家庭での健康管理の必要性について理解する。	
	ライフステージと健康管理	・ライフステージごとの健康管理について理解する。	
	家庭看護の基礎	・家庭での看護の基礎的な技術を身に付けている。	
高齢者の自立生活支援と介護	高齢者の心身の特徴	・加齢に伴う心身の変化と、高齢者介護の基本の必要性を理解する。	
	人間の尊厳と自立生活支援の考え方	・高齢者介護の基本として、自立生活支援の考え方を理解する。	
	高齢者介護の基礎	・高齢者の自立生活支援と介護について理解する。	
高齢者福祉の制度とサービス	人口減少社会と社会福祉	・現在の高齢化の特徴や現状と人口減少社会について理解する。	
	高齢者福祉の法規と制度	・社会福祉の必要性や高齢化の進行に伴って整備された法規と制度の目的と概要、変遷について。興味・関心をもつ。	
	保健・医療・福祉サービス	・高齢者の健康や生活を地域で支えるための保健・医療・福祉サービスについて理解する。	
生活支援サービスと介護の実習	生活支援サービスの実習	・生活支援、介護の基礎的な技術を理解し、習得する。	
	介護の実習	・高齢者の自立生活を支えるための実践的な態度を身に付ける。 ・高齢者と接する機会や福祉施設等の実習を通し、介護の実習に興味・関心をもつ。	
	レクリエーションの実習	・レクリエーションが高齢者の身体的、精神的な機能や社会性などの維持・向上に有効であることを理解する。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・ファッション 造形基礎	4	ファッション造形基礎 (実教)	
科目の概要と目標	・被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ・被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・衣生活の充実を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的か協働的に取り組む態度を養う。		
単元	学習内容	到達度目標	
衣服の構成	人体と衣服	・人体の特徴を知り自身の身体の計測を行う。 ・衣服に求められる着心地の良さを知る。 ・年齢や体型の特徴、着脱や動作によって生じる様々な変化や影響を理解する。	
	立体構成衣服と平面構成	・立体構成及び平面構成のそれぞれの違いについて理解する	
衣服の素材	衣服素材の性能と選択	・衣服素材の性能について理解し、製作する衣服に適した素材を選択する。 ・繊維や糸、布の特徴について理解する。	
洋服の製作	被服製作の基礎 型紙の配置 生地のカット	・布目の方向や柄の向きに留意し、かつ生地が無駄にならないパターンの置き方を考え配置し、カットする。 ・布地の種類や性質を理解し、地直しや裁ち方を習得する。 ・カット、縫製に関する基礎的な事項を理解し技法を習得する。	
	ハーフパンツの製作	・洋服の種類に応じて適切な製作に必要な技術を身につける。	
	着 装	・洋服の着用を通して立体構成についての理解を深める。	
和服の製作	じんべいの製作	・和服の種類に応じて適切な製作に必要な技術を身につける。 ・平面構成衣服についての理解を深め、基本的な縫製技術を身につける。	
	着 装	・礼装としての和服や帯の種類を理解する。 ・和服の着用を通して平面構成についての理解を深める。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・服飾手芸	2		
科目の概要と目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の制作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標とする。		
単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1. 手芸の種類と特徴	・地域の伝統文化と関連付いた手芸の種類と特徴	・手芸の種類と特徴について理解することができる。 ・手芸の種類と特徴の表現効果について課題を発見し、その解決に向けて考察することができる。 ・手芸の種類と特徴について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
2. 手芸の変遷	・刺繍、編物、染色、織物及びその他の手芸の起源から現在に至るまでの変遷	・手芸の変遷について理解することができる。 ・手芸の変遷と手芸技法との関係について課題を発見し、その解決に向けて考察することができる。 ・手芸の変遷について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
3. 服飾材料としての各種手芸の技法	・刺繍、編物、染色、織物及びその他の手芸の基礎的な技法について	・各種手芸の技法について、基礎的な知識について理解し、関連する技術を身につけることができる。 ・各種手芸の技法の製作工程や表現効果について課題を発見し、その解決に向けて考察することができる。 ・各種手芸の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	
4. 手芸品の製作	・服飾への活用	・服飾への活用を目指し、表現に適した材料や手芸技法について理解し、関連する技術を身につけることができる。 ・美的価値が高い作品製作及び合理的な作品製作のための課題を発見し、その皆生悦に向けて効果的な表現方法を考察し、表現することができる。 ・手芸品の製作について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
フードデザイン	2	フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)	
科目の概要と目標	・家庭生活に関わる食の産業を通して食生活を総合的に見つめ、それらの職業に関する資質・能力を育てる。 ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関連付けて理解するとともに、それらの知識と技術を身に着ける。 ・食生活の現状から課題を発見し解決に向け創造的に実践したり、食生活の充実向上を目指して主体的かつ共働的に学びに取り組んだりする態度を育てる。		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	・フードデザインを学ぶ意義	・食生活を総合的に捉え、家庭や地域における食育の推進に主体的に取り組む意識を持つことができる。	
1. 健康と食生活	・なぜ食べるのか ・食の現状	・食事の意義を理解することができる。 ・食生活の習慣が健康や環境に与える影響を理解することができる。	
2. 栄養素と食品	・栄養素の働き ・食品の特徴	・五大栄養素の働きを理解することができる。 ・食品の特徴や、調理上での特性を理解することができる。	
3. 食品の選択と取り扱い	・食品の表示 ・食中毒 ・食の安全	・家庭での調理や調理実習での食中毒を予防するポイントを理解し、実践することができる。 ・食品の長距離輸送や食品添加物など生活の中で身近に関わる食の安全性について理解することができる。	
4. 調理してみよう	・調理の意義 ・調理操作	・調理の意義を理解し、適切な調理操作を実践することができる。	
5. 各国料理とテーブルコーディネート	・料理の様式 ・テーブルコーディネート	・日本料理、西洋料理、中国料理それぞれの様式を理解することができる。 ・場面にあったテーブルコーディネートを理解し、実践することができる。	
6. 食育と食育推進活動	・食育の取り組み ・食文化 ・食と環境	・おいしさには様々な要因が影響していることを理解することができる。 ・郷土料理をはじめとした地域の食文化について理解することができる。 ・食生活の課題を把握し、解決のためにこれまでの学習を活かして積極的に実践活動に取り組むことができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
調理	2		フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)
科目の概要と目標	- 健康につながる食生活を実践できる資質と能力を育てる。 - 調理の基礎的知識と技術を身に付ける。 - 様式や目的に応じた献立作成と調理ができるとともに主体的かつ共働的に学びに取り組む態度を育てる。		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	調理を学ぶ意義	- 食環境の変化や外食産業なども踏まえ、調理理論と調理の基礎的技術の習得を目指し、食生活の充実に取り組む意識を持つことができる。 - 食品の取り扱い、調理の中で、安全と衛生に重点を置く必要性について理解することができる。	
1. 健康と食生活	食の現状	食生活の現状から課題を発見し、解決へ向けた工夫を考えたり実践したりすることができる。	
2. 栄養素と食品	食品の特徴	- 食品の特徴や、調理上での特性を理解して調理ができる。 - 食品の栄養計算について理解することができる。	
3. 食品の選択と取り扱い	- 食中毒 - 食の安全	- 家庭での調理や調理実習での食中毒の要因を知り、予防するポイントを理解して調理することができる。 - 食品によるアレルギーなど健康に影響する事柄を理解することができる。	
4. 調理してみよう	調理操作	様々な調理方法による操作ができる。	
献立と料理	- 献立 - 和洋中の料理様式 - 行事食と郷土食 - 環境を意識した調理 - 災害時の食事	- 目的やその対象、場面などにあった献立作成ができる。 - 安全、栄養、食品、嗜好などについて理解するとともに、おいしさの要因と関連付けた調理ができる。 - 創意工夫やアイディアを活かした調理ができる。 - 様式別の献立を理解し、代表的な料理を調理することができる。 - 行事や季節に合わせた食事や地域の食文化について理解し、調理することができる。 - 環境に与える影響を意識して調理することができる。 - 災害時を想定した食料の準備と調理について理解することができる。	